

ミサゴ *Pandion haliaetus* (Linnaeus)

【選定理由】

伊勢・三河湾沿岸の干潟を中心に、主として冬期に生息する。本来県内の生息数が多い種ではなく、沿岸部で見られることが大半であったが、1990年頃から内陸で見られることが多くなり、2000年頃からは生息数が増加している。県内における繁殖は、2013年に内陸で確認されたものが最初である。その後内陸の各所でも繁殖期に確認されていたが、繁殖はしていなかった。ごく最近になって最初に確認された場所を含め内陸の数ヶ所で繁殖が確認されているが、安定しているとはいえない状態であることから、愛知県では繁殖個体群を準絶滅危惧、越冬個体群はリスト外と評価された。

【形態】

雄は全長 56～60cm、雌は全長 57.5～61.5cm。背と翼上面が暗褐色、頭部から腹にかけての下面は白色で、目先から頸側を経て後頸にいたる太くて暗褐色の帯がある。胸に黒色と暗褐色の縦斑からなる帯があることが多い。雄は雌に比べて胸の帯が淡く、幼羽は雨覆の羽縁が明瞭。他のタカ類に比べて翼が長く、飛行時は尾が短く見える。



愛知県西尾市, 2015年10月18日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

主に冬期に伊勢・三河湾沿岸に生息するのが大半であるが、内陸でも見られることが多くなり、ごく少数が内陸で繁殖している。

【国内の分布】

九州以北で繁殖し周年生息するが、北海道では夏鳥で、本州中部以西では冬期に多く見られる。

【世界の分布】

広く世界に分布し、主に北半球で繁殖して冬期に南半球まで渡るものもいるが、東南アジアやオーストラリアに分布するものは、留鳥として繁殖している。

【生息地の環境／生態的特性】

県内で最もよく見られるのは干潟や河川の下流から河口、沿岸部にある池沼や水路で、こうした場所の獲物は主にボラである。内陸の河川やため池、ダム湖などでよく見られるようになった時期と、移入種のブラックバス釣りが盛んになった時期とは概ね一致している。水面の上空を飛び、停空飛行の後に急降下して水中に飛び込み魚を獲る。営巣は主に水辺近くの樹木や崖、送電線の鉄塔などで、県外では海岸や島嶼で繁殖する例も多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

近年は干潟や河口を中心に1980年代の数倍が生息しており、沿岸部だけでなく、山地を含む県内全域の水辺でも見られる機会が増えている。繁殖期に沿岸部周辺で見られるものは若鳥が多く繁殖はしていないが、最近内陸では数ペアの繁殖が確認されている。1970年代までは農薬やPCBなどによる影響で、世界的な減少が問題となっていたが、2000年以降はその危機を脱しつつある。

【保全上の留意点】

県内での繁殖が安定するまでは、準絶滅危惧として観察を継続する必要がある。

【特記事項】

1970年代から本種の繁殖について調査されているが、三重県では伊勢湾内の島嶼で繁殖の記録があるものの、愛知県では沿岸部における繁殖は確認されず、2013年に山奥で繁殖が確認された。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.49. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)